企業名：コスモエネルギーホールディングス株式会社

レポート名：期末レポート

1.　この会社が目指す姿が理解できるか

21～22 ページにおいて、2016 年から 2020 年までのデータを提示しており、説明責任を果たしているといえる。

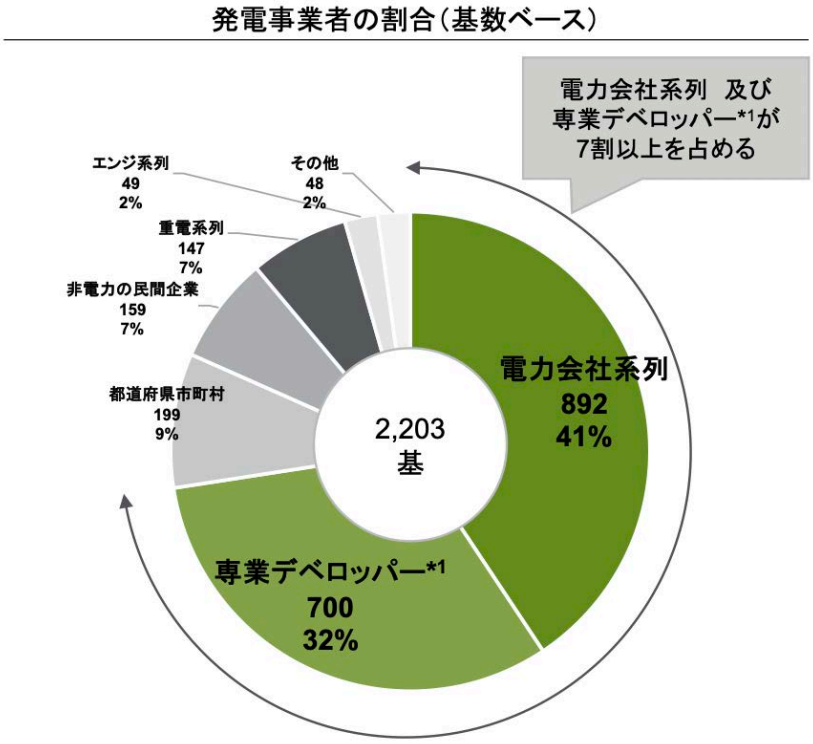
サステナブルな経営への取り組みについてページが割かれている印象が強い。企業のマテリアリティにサステナビリティを組み込もうとしている様子がよく伝わってくる。化石燃料を扱う会社であるにもかかわらず、気候変動対策を最重要視し、現在の主流に合わせた変化のために CO2 排出量削減に対する取り組みを紹介している。

7～8 ページ価値創造モデル、細かいことだがコスモグループのビジネス活動の項目で下から「私たちの価値観」「私たちの経営基盤」「私たちの事業活動」「第 6 次連結中期経営計画」と要素が構成にそって下から上に積み上げられているデザインにより、感覚的な理解が可能となっている。

2.　この会社の競争優位性が理解できるか

社長メッセージにおいて、・中期経営計画の「Oil & New」について、Oil については 2021 年度の新鉱区取得が脱炭素社会へといった現在の流れと逆行しているように思われるが、現在のコア事業で挙げた収益を再生可能エネルギーに投資し事業ポートフォリオの転換を図っていること、New についても政府が推進する洋上風力発電事業について先行社としての優位性を説明している。なぜ国内で風力事業において優位であるかの詳細な説明を 51 ページでしているが、文章だけでなく日本地図を用い陸上風力発電所を全国展開している事実を示している。洋上風力発電においても海外大手企業との連携をとっており、プロジェクトの実現を目指している姿勢がみられる。

3.　その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか



参照元：デロイトトーマツ株式会社「平成 29 年度電気施設等の保安規制の合理化検討に係る調査 風力発電業界の構造調査 最終報告書」

上図の通り、風力発電事業者の割合は発電ノウハウがある電力会社や専業ディベロッパーが 7 割以上を占めていることから 2004 年から 20 年弱事業を続けているとはいえ、専業社と比較すると体力的にも不安が見られる。しかし、コア事業の石油事業での収益をエネルギー全体に携わるグループへの変革に向けた事業に投資するのは、企業の持続可能性を高めていると考えられる。

4.　この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

人材育成に関しての説明が半ページ 3 分の 2 ほどで少なく、実施内容も他の企業と大きくは違わない点で企業による従業員教育へはそれほど期待することができないように思われる。しかし、石油関連会社である一方再生可能エネルギーへのシフトを積極的に推進している点や、扱う事業の規模が大きい点から、自身の取り組み方次第では十分に人的資本の価値向上が達成できるといえる。

5.　報告書にはどのような改善余地があるか

レポートの冒頭で洋上風力発電で先行しているとあるがその根拠が明示されておらず、そ

の後のページには（51～52 ページ）記述があったものの、事実や実際の数値よりも目標や目標値が目立っている点が不安を抱かせるように思われる。また、目標を語ってはいるもののそれがどの程度達成されているかについての言及においても、もう少し数値化されたデータがあると読者にも親切であると思われる。